

全国大会でW優勝

向陽中・高が快挙、世界へ



AR
この写真
いこくで

Rememberの(左から)園栗さん、岸田さん、吉川さん

京都で4月に開かれた「ロボカップジュニア・ジャパンオープン2022けいはんな」で、和歌山市太田の県立向陽高校物理部ロボット班「Remember」と、同中の理科部ロボット班「Desudu」が初のダブル優勝を果たした。Rememberはレスキューライン部門の日本代表として、7月にタイで開かれる「ロボカップ2022バンコク世界大会」への出場を決め、世界に通用するロボットを目指して改良に励んでいる。

ロボカップジュニア



Desuduの南さん(左)、辻さん

「ロボカップジュニア」は自律型ロボットのコンテスト。レスキュー、オンステージの3部門で競うロボットのコンテスト。各地のロボット大会を勝ち上がったチームが、出場でき、Rememberは関西代表として、世界大会に出場してき

て、世界大会にたどり着いたという部長の岸田さんが「これまでの経験で得たライントレースのノウハウを全て生かした」と話している。結果がしっかりと表れ、安定した精度の走りで見立てた球を見つけていく。1回の制限時間は8分で、3回ロボットを走行させ、総合得点で順位を競う。同校2年の岸田健吾さん、園栗(だんぐり)良太さん、吉川優介(ゆづが)さんの3人からなるチームは約半年間、あらゆるシチュエーションに対応できるようロボットの改良を重ねてきた。中1の頃から毎年同大会に出場してき

え、同校にとっても初の世界大会出場を喜ぶ。

園栗さんは「うまくいかないときの苦しみが大変な分、後に返ってくる喜びも大きい」と同競技の魅力を語り、「できることを全てやって世界に挑みたい」と意気込む。岸田さんは「世界大会にはすごい技術を持った人が集まるので、より進んだ技術を学び、できるだけ高い順位で一つでも賞を取れば」と話し、世界大会仕様のチームに変更するなど、ロボットの改良に力を注ぐ。

日本リーグで優勝したDesuduの2人、同中3年の南悠大さんと辻唯人さんは世界に挑戦する先輩らに対し、「自分たちの目標も大きくしてくれ、ありがたい存在」と尊敬のまなざしを向け、「積み上げてきたものが全て結果に出ると思うので、世界大会を楽しんでほしい」と熱いエールを送った。